

第6回

おけきたサミット

全国地域おこし 名人・達人サミット
in 桶川・北本

いま、ここに、共に、生きる

この地は
誰が拓いてくれたのだろう
この地を豊かにはぐくんでくれたのは
どんな力によってだったのか
遠い遠い彼方から
われらここにたつ今にむすぶ
この地――
明日へ 未来へ
どんなおもいど力が
はるかな希望へと
大なる自由への道を
しかと拓くことになっていくのだろうか
市民自身の力でつくるこのまち――
自ら立つ「市民のおまつりの日」に
あらためて考えてみる

17日(日)

分科会9時頃開始
全体会2時開始

北本市文化センター他



16日(土)

12時半開場
1時開会

桶川市民ホール大ホール



いよいよ開幕です！

市民主体のまちづくり！

「第6回全国地域おこし名人・達人サミットin桶川・北本」が11月16(土)、17日(日)に開かれます。1日目は桶川市民ホール大ホールで1時開会(12時半開場)。桶川高校吹奏楽部の演奏から始まり、小野克典桶川市長の開会挨拶、藻谷浩介さんの基調講演、リレートーク。2日目は北本市文化センターなどで分科会、フィールドワーク、展示・体験、そしてクロージングセッションを行い、三宮幸雄北本市長の閉会挨拶で幕を閉じます。市民自身の力でつくる、市民主体の「まちづくりまつり」。ぜひご参加ください。

リレートーク

ワーカーズコープくじら雲所長
鹿谷英治さん子どもの未来を考える会
いどりの輪共同代表
横山法子さん北本加藤ト
マト園代表
加藤浩さんマルキュー株
式会社社長
岡田信義さん株式会社ベ
にっこ代表
永井照子さん

オープニングセレモニー

オープニングは、
桶川高校吹奏楽
部の演奏から

展示・体験

17日「展示・
体験」は、北本
市役所前ひろば
などで。マルキ
ュー株式会社の
提供で「金魚釣
り」も。

基調講演は藻谷浩介さん



16日2時から藻谷浩介さんが基調講演をします。日本総合研究所主席研究員で、著作に「里山資本主義」「誰も言わない日本の『実力』」「デフレの正体」など多数。

「創り出そう！市民の力で持続可能で豊かな地域社会を」

主催 第6回全国地域おこし名人・達人サミットin桶川・北本実行委員会
共催 桶川市・北本市発起人 桶川市長 小野克典、北本市長 三宮幸雄、桶川市議会議長
佐藤洋、北本市議会議員 工藤日出夫、マルキュー株式会社社長
岡田信義、農家・元埼玉県議会議長 滝瀬副次、日本社会連帯機構
代表理事 永戸祐三、ワーカーズコープ埼玉事業本部本部長 成田誠

参加費 両日2000円 1日1000円(展示のみ一部無料)

■お問い合わせ・連絡先

〒336-0018 さいたま市南区南本町 2-5-15M.M. オフィス
労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団 埼玉事業本部
TEL: 048-844-0085 メール saitama@roukyou.gr.jpお申し込み・
お問合せサミットホー
ムページ

こんな話をします

リレートーク 16日

桶川名物べに花まんじゅうどう継続

株式会社べにつこ代表 永井照子さん



20年程前、べに花ふるさと館のオープンに合わせて桶川名物をつくらうという話になりました。

桶川は昔からべに花の生産地で、小麦の集産地でもありました。

7月1日には「初山」という行事があり、五穀豊穡を願う、新しい小麦でお饅頭をつくる風習があります。そこからヒントを得て、べに花まんじゅうをつくりはじめました。

最初は25人でスタート。全員が商工会の会員で、商工会女性部で製造していましたが、現在

は「株式会社べにつこ」として製造を続けています。ふだんは100個くらい、イベントのときは1300個くらいはつくります。

今は10人ほどになりましたが、ここに来てみんなとしやべつていけると、足の痛いの、頭の痛いのみんな治ってしまつて感じて、皆さん、ここに来るのが楽しみなんです。

高齢化もあり、事業をどう継続していくのが課題です。どういう方向に向けていきたいらいいか、お知恵を拝借できれば。



手作りの味は格別（森康行監督・サミット記録映画から、4面集合写真も）



不登校問題解決に寄与する釣り

マルキユー株式会社社長 岡田信義さん

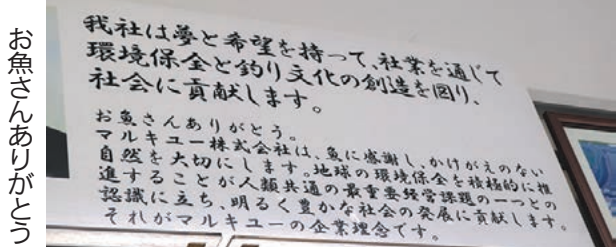


釣りは、心身の健康を促進し、特に不登校の問題解決に寄与する魅力的な活動です。

自然の中で行う釣りはストレスを軽減し、リフレッシュする効果があります。また、家族や友人とのコミュニケーションを深め、社会的なつながりを強化します。

中でも、釣りを通じた成功体験は、自己肯定感を高めるのに非常に重要です。特に不登校やひきこもりに悩む子どもたちにとって、釣りは自然回帰の場を提供し、社会復帰への第一歩となる可能性があります。

子どもたちの豊かな成長のために釣りを生かし、市民の釣りをする権利を守ろうとアピールさせていけたらと思います。



お魚さんありがとう

分科会 17日

(分科会Bは4面)

A(特別分科会)知る・学ぶ・やってみようか！食・農・学校給食

農業従事者の激減、高齢化、後継者不足。増大する遊休農地、耕作放棄地、輸入に依存した食料。日本の農業、食料はまさに危機に直面しています。その中で、食の安全と子どもへの影響を心配し、給食の無償化を求める人たちが増えています。環境、国土の保全など農業・農地の多面的機能の大切さも改めて注目されています。

この分科会では鈴木宣弘教授の基調講演に学び、島村菜津さんのコーディネーで、多様な農業実践、給食費無償・オーガニック給食を実現した千葉県いすみ市の経験、給食費の無償化やオーガニック給食を求めて活動している皆さんなどからの発言を通じて、食料・農業・学校給食等の現状と課題を知り、その重要性を共有し、一人ひとりが実践するきっかけとなることをめざします。



鈴木教授

鈴木宣弘東京大学大学院特任教授が講演

「米不足騒動と食糧自給はどうなっているか」
「外国・海外依存の食料の現実と問題点」
「日本農業の現状と問題点」



中村さん

◎「なぜ、食料自給率の向上、後継者不足は解決しないのか」を考える

＊進藤隆之さん(元JAさいたま常務)

＊中村多日子さん(中村農園)

◎「ワーカーズコープ山口」の休耕田を活用した米作り／村崎忍さん



山口の「みんなでつくってみんなで食べる田んぼ」



島村さん

◎子どもの成長と学校給食の大切さを考える／島村菜津さん

◎「給食無償化・全校オーガニック給食を実現しているいすみ市の取り組み」 鮫田晋さん(いすみ市農林課主査)

◎安心・安全な給食の無償化、オーガニック給食を求める保護者たちの取り組み

＊若林美喜子さん(学校給食費完全無償化をめざす北本の会)

＊佐藤有希さん(子どもの未来を考える会いろどりの輪)

◎まとめのコメント／島村さん



鮫田さん

C 北本団地のこれからを考える

北本市学習センター 10時から

UR北本団地ができて53年になります。2000余世帯、7000人を超える入居者が集い、一気に北本町を市に昇格させました。

以来50余年の歳月は市全体の自治活動にも、街の活性化にも大きな影響を与えてきました。北本市は団地ができた頃は5〜6%の高齢化率だったのが今は30%ほどで、北本団地に限ると47%を超える高齢化率となっています。

この分科会では団地の諸課題や取り組みを共有し合うと共に、先駆的に団地の活性化や居場所、課題解決



斎藤さん



岡野さん

の活動や住民の活躍の場づくりを実践する千葉県佐倉市の中志津団地にある、ワーカーズコープ中志津の実践を学び、北本団地のこれからと共に、地域全体の課題である自治会の高齢化・加入率の低下、地縁団体の連携、担い手の創出、コミュニティの活性化についても議論します。

コーディネーター…斎藤徹さん(街活性室株式会社)

登壇者…佐藤利彦さん(北本団地自治会会長)、岡野高志さん(暮らしの編集室)、島野正紀さん(ワーカーズコープ)、中岡康市さん、岡田恭比呂さん(ワーカーズコープ中志津)

D 地域のケアII 地域力 みんなが主人公になるまちづくり

北本市文化センター会議室1 9時30分から



澤登さん



成井さん

桶川の実践から学びます。行政・専門職・利用者・住民が同じステージで学び合い、話し合い、アイディアを出し合い、誰もが集える居場所づくりに一歩踏み出す、そんな場になりたいと思います。

講演…澤登久雄さん(おおた地域見守りネットワーク「みまも」)

コーディネーター…須賀貴子さん

登壇者…成井さなえさん(ケアステーションオリブ)、鹿谷英治さん、鈴木節子さん(ワーカーズコープくじら雲)、川島明さん(バルトサロン)、甲斐田よし子さん、安藤富貴江さん(北本市地域活動支援センターかばざくら)

見守りから地域見守りへと進む「みまも」と、北本・



「くじら雲」開所式



大人の責任として行動し、子どもたちにつないでいきたい



加藤トマト園で



トマトでまちおこしのドラマが

北本加藤トマト園代表 加藤浩さん

私の家は古くから続く専業農家で、昭和30年代終わり頃にビニールハウスによるトマト栽培を始めました。トマトを栽培してかれこれ60年ほどになり、私自身もトマト作りを30年やっています。しかしながらそれ以上に長いのが北本市でのトマト栽培の歴史です。大正14年に始まった北本市でのトマト栽培ですが、数えると来年には100年を迎えます。これは日本国内で栽培された最初で、わたたお話をしたいと思います。

自然と共に生きるまちづくりを

子どもの未来を考える会いどりの輪共同代表 横山法子さん

私はもともと福島県の南相馬市出身です。2011年の東日本大震災で被災し、その後、都内から埼玉へと移り住みました。あの震災で、まちが津波で流されたり、原発事故で人が住めなくなるという光景を目の当たりにしたことで、人間が何十年、何百年と膨大なコスト・時間をかけて、自分たちの快適さや利便さのためにまちをつくっても「自然の圧倒的な力」には到底かなわないということ・地球上にいる多様な生物の中で、人間の利益だけを優先しすぎた結果の代償はあまりにも大きいということ学びました。だからこそ、今あるもの（そのまの良さや特性）に目を向け、自然と共に生きるまちづくりを大人の責任として行動し、子どもたちにつないでいきたいです。

一歩踏み出す背中をそつと押す

ワーカーズコープくじら雲所長 鹿谷英治さん

北本市の小学校で長く教員を務め、最後は特別支援学級を担当、この子らの将来に何か携わることができればという思いで退職。ワーカーズコープに入り、18年、石戸5丁目に「くじら雲」(生活介護・就労継続支援B型)を開設する。いつまでも住み慣れた地域で生き、安心した居場所になり、自分の特性を生かした仕事ができ、子ども外に出て、地域の人たちと一緒に仕事をする。地域の人たちが

展示・体験 17日

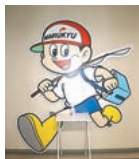
食の交流会

分科会や、おけきた散策を堪能した後は、桶川・北本両市のボランティアさんが皆さんの胃袋をつかみます！ 地元食材を取り入れ、食文化を披露し、心を込めてこしらえ、「また、あれが食べた」と言わせるような昼食を準備します。サミット発起人の一人、滝瀬さんの小麦を使って桶川市の女性チームがつくったスノーボール(写真)とカステラ、そして北本市からはトマトカレーなど、「1品料理のおもてなし」も準備。キッチンカーも待機しています。食事は参加費に含まれています。お待ちしています。(高橋初子)



以前のサミットでの「食の文化祭」

子ども参加体験



- ▼金魚釣り
- ▼北本市立児童館でのいろいろなイベント

出張桶西水族館

▼埼玉県立桶川西高校の校内水族館が出張してきます



餅つきなど

▼いなほ保育園がいろいろな取り組みを



フィールドワーク 17日

E 平和と命

桶川駅西口集合9時20分
桶川飛行学校平和祈念館 10時

1937年6月に熊谷陸軍飛行場桶川分校として開校し、45年2月以降は特攻隊の訓練基地にもなった施設を桶川市が再整備。平和を発信し尊重する社会の実現および地域の振興に寄与するための施設として2020年8月4日に開館した桶川飛行学校平和祈念館を訪ね、「戦没者遺児の体験」を伺い、比叡山と同格の天台宗の名刹、泉福寺の住職からの講和もいただき、改めて平和と命の尊さを確認する機会とします。



訓練兵たちはこのベッドで



登壇者：白田智子さん(旧陸軍桶川飛行学校を語り継ぐ会元会長)。清水英雄住職(東叡山勸願院円頓房泉福寺)

F ポールウォーク 健康・歴史

北本市文化センター集合8時45分
開始9時15分

杉浦伸郎さんによる講演「楽しいポールウォーク」と実技指導を受け、桶川班、北本班に分かれます。(小雨決行、荒天時は室内で実技、座学)



杉浦さん

講義・指導：杉浦伸郎さん(ソシヤルフットネス協会代表理事)

▼桶川コース(皇女和宮行列の4万5千人が泊まった桶川宿を歩き、江戸の昔にタイムスリップ)

▼北本コース(バスで北里医療センターへ。東京ドーム7個分の北本自然観察公園、「蛭の里」で知られる広大な緑地を歩きます)

G 子どもの居場所と多様な学び

北本団地商店街 9時半から(定員あり)

さまざまな理由で学校に行かない選択をした子どもたちの個性や可能性を尊重する多様な学びの場が各地に立ち上がっています。

北本団地商店街の空き店舗を活用するNPO法人北本児童保育の会うさぎっ子クラブが運営する「うさぎっこはつす」と、きたもと学びの会が運営する「なかにわスクウル」の実践を見学し、子どもの居場所と多様な学びとは何かについて学びます。

講演：朝倉景樹さん(東京大学)

登壇者：青柳恭義さん(北本児童保育の会うさぎっ子クラブ) 稲葉陽一さん(農業フリースクールす・た・あ・と) 有坂美幸さん(ワーカーズコープじゃんぶ)



朝倉さん



青柳さん

紅花染め実演

▼紅花染めを見学します
▼着物リメイクも

両日にわたって、フードドライブを行います。ご家庭や職場で余っている食品を会場にて受け取ります。お米、缶詰、調味料、乾麺、ジュースなど飲料、インスタント・レトルト食品、粉ミルクなど。よろしく願います。

フードドライブにご協力を

映画「中村哲…」関連書籍なども



ブレ企画で上映した「中村哲の仕事・働くということ」関連の書籍なども用意

「分科会B」 市民が仕事をおこすということ 労働者協同組合法を活用して新しい可能性に挑戦

「労働者協同組合法を活用して新しい可能性に挑戦」という副題をつけて開かれる「市民が仕事をおこすということ」の分科会。

労働者協同組合法とは、働く者が出資し、話し合って運営する協同組合に法人格を与える法律。「雇う・雇われる」関係ではなく、働く者が主人公になって地域のためによい仕事をするワーカーズコープやワーカーズコレクティブなどの40余年の運動が実り、4年前、全党一致で成立。2年前の10月に施行されました。

地域に本当に必要な仕事なのに、担い手の高齢化や、事業を成り立たせる仕組みの問題などで「あとつぎがない」というような現実がある一方、地域のために仕事をおこしたい、働きたい、という人、とくに若い人たちも増えています。

労働者協同組合法を活用してどう新しい展望を拓いていくのか。実行委員会での議論から、どんな分科会になりそうなのか探ってみました。（日本労働新聞 松沢常夫）

もったこんな協力の仕方があるんじゃないか

「べにっこ」「べに花生産組合」「農家」

こんな「分科会」になりそうです

若い人を入れたいけれど

リレートークに続いて登場する「べにっこ」の永井照子さんが、まずこんな悩みを打ち明けます。

「平均年齢82歳、10



平均年齢82歳という「べにっこ」のみなさん。朝5時半に来て、仕事が終わると、おしゃべりしながら朝食。これが楽しい

「組合員は72歳の私よりみんな年上。集まると、『あと何年できるだろう』という話になる。でも、平均年齢をぐんと下げる2人の方が入ってくれた。べに



べに花生産組合栗原さん

花に興味があり、幅広い吸収力がある。我々があと4、5年頑張ればいいバトンタッチができるんじゃないかなと希望をもっている」



べに花生産組合小峯さん

会社勤めでも休日活用して

「今一番心配なのは日本の我々が食べる食料がどうなるかということ」という北本市の農家、滝瀬副次さん（84歳。元埼玉県議会議員、サミット発起人）は、「米不足問題でこしひかりを8袋盗まれた」など、こんな現実を紹介しています。



農家 滝瀬さん

「私のところは、親父が昔、河川敷の原野に荒川から水を揚げて田んぼにし、米を作れるようにした。約60町歩を1反とか1反5畝とかに分け、耕作者は260人いた。今は耕作者が10人で、みんな80歳前後。『機械が壊れるか自分がダメになるかでやめる』と言っており、すでに3割は荒地になっている。3人の孫の中で1番上、27歳くらいの孫が手伝ってくれるが、『職としてやれよ』とは言えない。食べられないから」



永戸さん

「展望が持てそう」と思える分科会に

「会社勤めの人は土日だけでも年間1000日以上休みがある。その何割かでも活用し、楽しみながら農業をやっている人がもつというくらいか利益が得られるようにすることだ。5畝でも1反でも耕し、自分たちで食べ、余ったら売れるようにする。政府は大型農業をやる人には機械の購入費用とかいろいろ助成金を出しているけど、別な形で農業振興に力を入れないとだめだ」そして、「滝瀬塾」も始め、農業をやりたい人を集めようとしています。

サミット発起人でもある永戸さんは、こんな分科会にしたいと話しています。

「今は分断、孤立の中にあるけれど、もったこんな協力の仕方があるんじゃないかというところも打ち出し、参加した人たちが『今とは違った流れができるかもしれない、展望が持てそうだ』と思える分科会にしたい。」

また、べにっこや、べに花生産組合に来たら、最低でも飯が食えて、この程度のことではできませんよ、ということもアピールできた。農業は協同労働で担うのがふさわしい。その提案もしたい」

誰かが言い出せば、じやあやろう

ワーカーズコレクティブとて 邇山真理さん

ワーカーズコレクティブは、生活クラブ生協の運動からできた団体。みんなが出資し経営し働く「協同労働」という形で、地域にあってほしいなと思うものを事業にしております。には40団体あります。



協の配送など多岐にわたる仕事は食、福祉、生活の力です。市民報酬は「給料」と言

たっており、地域の居場所を作り、制度外の生活サポート事業、ケア付き移動サービスなどもやっています。『こども食堂が必要だね』と誰かが言い出せば、じゃあやろうと、市民の力でやっています。

報酬は「給料」と言

住む場、働く場、誇り取り戻す場を

横浜市精神障害者地域生活支援連合会 大友勝さん



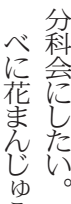
私は、日雇いの労働者を10年間、横浜市の寿生活館職員として15年

今は、寿町の高齢者、障がい者、ホームレスの人たちなどの課題を解決しようと、ドヤ（簡易宿泊所）を改装し、共同の住居、生活の場、働く場をつくることと「農福連携」に力を入れています。

神奈川県とも一緒にな

って、12月に「神奈川農福連携推進協会」を設立します。

ドヤの改装には国交省の助成金が出ることにりましたが、自分たちのことは自分たちでやるしかない。居住支援と農福連携とで、住む場、働く場、誇りを取り戻す場をつくりだしたいと思っています。



人々を集めようとしています。これを受け、「楽しく、やりがいも求めて仕事をやりたいと思う人がある」という人が立ちたいという人がすぐく増えてきた。だから稲刈りが大変だったから、そこだけ応援する仕組みをつくるのかすれば、」などのやりとりがあり、労働者協同組合法をつくることに執念を燃やしてきた日本社会連帯機構代表理事の永戸祐三さんがまとめをします。

参考文獻 岩波ブックレット「へ必要」から始める仕事おこし 協同労働の可能性」

同労働の可能性」